



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 学会誌 新連載「私のTQM履歴書」のお知らせ
- 2-私の提言 モノづくりの根底をなす品質管理教育のあり方
- 2-ルポルタージュ 第441回事業所見学会ルポ
- 3-第54年度品質管理推進功労賞推薦のお願い/2025年1月の入会者紹介
- 4-行事案内/論文募集

学会誌 新連載「私のTQM履歴書」のお知らせ

学会誌編集員会委員 茨木 陽介

私のTQM履歴書

学会誌で新しい連載がスタートします

学会誌「品質」でVol.55.No.2 (2025年4月15日発行) から、新連載「私のTQM履歴書」がスタートします。本連載では、「産」の実務者、「学」の先生の経験をもとに、TQM (Total Quality Management) に取り組んできた軌跡を振り返りながら、実務・研究の中で培った知見や学びを共有していきます。

新連載にあたり狩野紀昭先生をはじめとする先生方や実務者の皆様にご相談し貴重なアドバイスをいただきました。

TQMと聞くと、統計的手法や品質管理手法を駆使した生産現場の改善活動を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、しかし、TQMは単なる技術論にとどまらず、企業文化の変革や組織の成長にも深く関わる概念です。日本企業は戦後、品質管理の導入を進めることで、世界に誇る「メイド・イン・ジャパン」の信頼を築きました。その礎には、多くの企業がQC (Quality Control) からTQC (Total Quality Control)、そしてTQMへと進化させてきた歴史があります。

実務者の皆様も同様に、この品質管理の道を歩まれた方が少なくありません。キャリアの初期には、QC手法を学

びながら現場で試行錯誤を重ねる日々を送り、やがて、TQCの考え方を経営に取り入れ、組織全体の品質向上を図ることの重要性に気づかれた方もいらっしゃると思います。さらに、グローバル競争の激化や市場環境の変化を背景に、TQMという枠組みのもと、経営戦略の中核として品質を位置づける視点を持つようになった方も多いのではないのでしょうか。

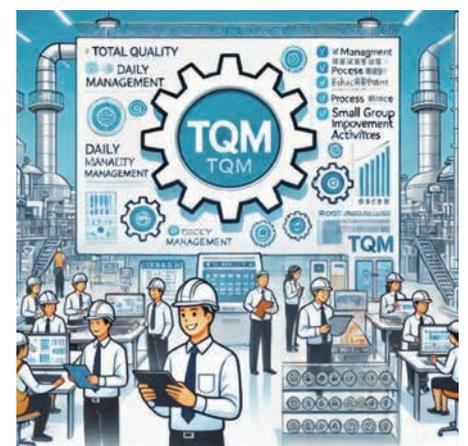
執筆者は「産」「学」のリレー形式

本連載では、一人の執筆者が前編・後編の2号にわたって掲載します。執筆者は「産」「学」が交互にリレーし、実際に直面した課題や、それを乗り越えるための試みを、具体的なエピソードを交えながら紹介していきます。例えば、

- ・現場改善のためのQCサークル活動の推進
- ・経営層を巻き込んだTQMの導入プロセス
- ・海外拠点での品質管理の課題と対応策
- ・デミング賞への挑戦
- ・JSQC規格の制定

といったテーマを掘り下げ、実務に役立つ示唆を提供します。

TQMを成功に導く鍵は、「人」にあると確信しています。どれほど優れた手法を導入しても、それを活用するの



は人です。経営層がTQMを理解し、現場の従業員が納得し、自らの仕事の価値を実感できるような環境を整えることが何よりも重要です。そのための組織文化の醸成や、人材育成の取り組みについても、本連載の中で触れていきたいと思っています。

品質管理に関わる全ての方に

TQMに関心のある経営者の方、品質管理の最前線で奮闘されている方、そしてこれからTQMを学ぼうとしている方にとって、本連載が少しでもお役に立てば幸いです。執筆者の皆様は経験談を率直に綴っていただくことで、読者の皆さまと共に品質管理の本質を見つめ直す機会にできればと願っています。

それでは、4月から始まる「私のTQM履歴書」、どうぞよろしくお願いたします。

● 私の提言 ●

モノづくりの根底をなす品質管理教育のあり方

金沢工業大学 藤井 寛



最近の日本のモノづくりに対して、強みが失われていると警鐘が鳴らされることがあるが、日本の製品・サービスは品質が真髓であると私は考える。

石川馨先生(1915-1989)の著作『名著復刻 品質管理入門』(日科技連出版社、2024年)の2ページに、「品質管理を効果的に実施するためには、市場の調査、研究・開発、製品の企画、設計、生産準備、購買・外注、製造、検査、販売及びアフターサービス並びに財務、人事、教育など企業活動の全段階にわたり、経営者を始め管理者、監督者、作業員など企業の全員の参加

と協力が必要である。」と記されている。具体的に示されていることに意義があるが、平たく言うと「品質管理は、全ての企業活動を対象にして、全てのメンバーが行う活動」となる。

そのために、同書5ページの「QCは教育に始まって教育に終わる」ことが求められる。品質管理の教育を一過性のものとしていないので、担うのは教育機関であり、企業でありということになる。大学での教育と企業での研修やOJTが連続して、学びがステップアップしていくことが望ましい。

現在、金沢工業大学では全学部・全学科を対象に必修科目として「技術者と持続可能社会」を開講し、その中で品質の講義を行っている。この科目の教科書として、この度拙著『技術者の

視点』(藤井寛 編著、長尾政志・山下恭正・中野真 著、日科技連出版社、2025年)を出版した。本書には、企業での経験を踏まえて、大学生のうちから押さえておくべき内容を織り込んだつもりである。

品質管理の教育には、QC的のもの見方・考え方といった精神的な側面と、統計的手法など実践するための方法論的な側面がある。どちらが欠けても、総合的品質マネジメントのTQMはなし得ず、2つの側面がバランス良く配置されることが肝要となる。

精神的な側面は繰り返し伝える必要があり、一朝一夕に浸透するものではないため、大学においてはこちらの方が先行して良いと私は考えている。一方、企業においては精神的な側面を踏まえた上で、目で見える効果を上げるために方法論的な側面に習熟することが必要となる。

日本の全ての大学で品質の教育が行われ、企業内の教育に結び付き、これらが発展していくことを夢見ている。

第441回
事業所見学会
ルポ株式会社デンソー九州
北九州工場

2024年9月13日に西日本支部主催で第441回事業所見学会が、デンソー九州 北九州工場で実施された。

デンソー九州は、デンソーグループの一員であり北九州市および広島市に立地している。自動車部品の製造を手掛ける企業で、主な製造品目は、カーエアコンなど熱機器、ディーゼル燃料噴射装置などである。

今回の事業所見学会の特徴は、これら製造工程の見学だけでなく、デンソー九州様の拘った改善活動の説明があったことである。

具体的な改善活動テーマは、工程信頼度の維持向上、工程内不良の低減活動、採算改善活動である。

その中でも特筆すべきは、DX盤QC7つ道具であるDN7を用いた性能検査合格率の追い込みである。これは、学会で展開するDN7の活用事例であり大変参考となる報告事例であった。製造工程から入手するデータを、サンキーダイアグラムや並行座標プロットなどにより見える化し、品質改善に活用している。またAI画像検査機の内製開発(ラジエターのフィンという目視でも判別が難しいものをAIで自動判定する)の事例の紹介もあった。

また、この事業所見学には、若林JSQC会長にも現地でご講演いただき大変充実した見学会となった。

最後に、業務ご多忙の折にもかかわらず、デンソー九州の皆さまには、事前の準備並びに、当日の丁寧なご説明など、厚くお礼申し上げます。

高倉 宏(トヨタ自動車九州株)

第54年度 品質管理推進功労賞 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第25回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：

以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

- 1) 企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
- 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

本年度選考方針：

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名以内とする。
- b. 地域・社会への貢献を重視する。
- c. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避ける。
- d. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける（理事、執行役員は対象とする）。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- e. 54年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。
- f. 特定の企業に属さず個人として品質管理の普及・発展に著しく貢献する活動を長年行ってきた人を含む。

評価項目：

本賞の候補者に対して、主に次の観点から評価を行う。

【A】所属組織への貢献

- a 1 TQC/TQM/標準化/QCサークル活動等の推進
- a 2 品質管理に関する表彰・認証等の受審支援
- a 3 品質保証体制の確立
- a 4 その他特筆すべき活動

【B】地域・社会への貢献

- b 1 日本品質管理学会の発展
- b 2 デミング賞委員会/品質月間/関連学会等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 3 標準化推進を通じた品質管理の普及・発展
- b 4 QCサークル活動の普及・発展
- b 5 日科技連/規格協会等の関係諸団体への協力を通じた品質管理の普及・発展
- b 6 品質管理に関する国際協力
- b 7 品質管理への深い造詣に基づく著作等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 8 その他特筆すべき活動

推薦必要書類：

推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。候補者が選考方針fの場合、上司等とは品質管理について師事する者またはそれに相当する者を含む。）

様式については、下記Webページよりダウンロードしてください。

URL：<https://jsqc.org/2025ACPQM/>

業績リスト（様式219-2）の業績については、左記の評価項目に対応した記述にしてください。

推薦締切：2025年6月30日(月)

推薦書類提出先：2025kourou@jsqc.org

選考：日本品質管理学会 品質管理推進功労賞選考委員会が行う

発表：9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知

表彰：第55回 年次大会 授賞式

連絡先：日本品質管理学会事務局

参考：https://jsqc.org/ACPQM_list/

2025年1月の入会者紹介

2025年1月22日の理事会において、下記の通り正会員6名の入会が承認されました。

（正会員6名）○千葉 裕太（NOK）
○今井 清久（日本品質保証機構）
○三宅 孝政（アイ・コン）○久世 博幸（住友ゴム工業）○井口 靖久（イトーキ）○渡辺 徹（福島製作所）

名誉会員：25名
正会員：1543名
準会員：70名
職域会員：49名
賛助職域会員：12名
公共会員：11口
賛助会員：163社232口

行事案内

●第183回シンポジウム（東日本）

テーマ：新たな市場を拓く商品開発プロセスの3つの視点

日時：2025年3月27日(木)14:00～17:00

会場：日科技連 東高円寺 3階A研修室

共催：一般社団法人 品質工学会

プログラム：

開催主旨「商品開発プロセス3つの視点」

椿 広計 氏（統計数理研究所）

講演(1)「価値探索の鳥瞰—事業はどこから来てどこに進もうとしているか—」（仮題）

石津 昌平 氏（青山学院大学）

講演(2)「価値創造の効率—自社得意技術を活用した新しい価値提供のために—」（仮題）

細川 哲夫 氏（リコー）

講演(3)「リスクベースの価値創造

—リスクアセスメントを事業開発に導入する—」（仮題）

山本 渉 氏（慶應義塾大学）

パネルディスカッション

「魅力ある商品の開発はどうあるべきか」

司会：廣野 元久 氏

パネラー：上記登壇者

招待パネリスト：

朝野 熙彦 氏（元東京都立大学）

唐沢 かおり 氏（東京大学）

田口 伸 氏（CTO ASI Consulting Group）

芳賀 麻誉美 氏（大阪経済大学）

詳細・申込：<https://jsqc.org/183sympo/>

●第146回QCサロン（関西）

テーマ：ひとり一人の"がんばり"にスポットライトを！～グローリー(株)のQCサークル活動について～

講演者：名倉 三加代 氏（グローリー）

日時：2025年4月8日(火)19:00～20:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：<https://jsqc.org/146qcsalon/>

●JSQC規格「方針管理の指針」講習会

日時：2025年4月9日(水)13:30～17:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

講師：光藤 義郎 氏（日本科学技術連盟）

プログラム：

1. JSQC規格「方針管理の指針」制定のねらい

2. 方針管理の基本

3. 部門における方針管理の進め方

4. 方針管理と日常管理

5. 組織全体の方針管理の進め方と方針管理の推進

6. 全体討論（質疑応答）

詳細・申込：https://jsqc.org/std33-001_2025/

●第146回クオリティトーク（東日本）

テーマ：カイゼンは“人づくり”です

ゲスト：川原 洋一 氏

（ANAビジネスソリューション）

日時：2025年4月22日(火)18:00～20:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：<https://jsqc.org/146qtalk/>

●第449回事業所見学会（中部）

テーマ：人を大切に思う気持ちやお客様の心に響く技術で未来を創る100年企業を現地現物で確認する

日時：2025年4月23日(水)13:10～16:00

見学先：シンフォニアテクノロジー(株)

豊橋製作所（愛知県豊橋市）

定員：20名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

詳細・申込：<https://jsqc.org/449visit/>

●第154回講演会（中部）

テーマ：アジャイル開発 & IT/DX技術で実現するパワートレーン開発のスピードと品質の両立

講演者：竹内 伸一 氏（トヨタ自動車）

日時：2025年5月12日(月)15:00～16:15

会場：オンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：<https://jsqc.org/154lecture/>

●第137回研究発表会（本部）

日時：2025年5月24日(土)

会場：日本科学技術連盟・東高円寺ビル
プログラム（予定）：

10:00～12:00 チュートリアルセッション

13:00～17:30 研究発表会

18:00～19:30 情報交換会 優秀発表賞表彰

詳細・申込：

3月下旬にホームページにてご案内します

●第22回ヤングサマーセミナー

日時：2025年9月17日(水)～18日(木)

会場：デンソーグローバル研修センター
「AQUAWINGS」（静岡県浜松市）

参加資格：原則35才以下

詳細・申込：<https://jsqc.org/22yss/>

●（予告）第53回年次大会（本部）

日時：2025年11月14日(金)・15日(土)

会場：京都大学 吉田キャンパス ほか

事務局

JSQCホームページ：<https://jsqc.org/>

本部：〒166-0003

東京都杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟東高円寺ビル内

E-mail：jimukyoku@jsqc.org

TEL：03-5378-1506

FAX：03-5378-1507

中部支部：〒460-0008

名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会名古屋支部内

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

TEL：050-1742-6188

FAX：050-3535-8675

関西支部：〒530-0003

大阪市北区堂島2-4-27

JRWD堂島タワー11階

日本科学技術連盟大阪事務所内

E-mail：kansai@jsqc.org

TEL：06-6341-4627

FAX：06-6341-4615

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会